

コタニワタリ *Asplenium scolopendrium* L.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。温帯性で日本海側に多い植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 3~12cm、褐色~暗褐色でやや密に鱗片がある。葉身は単葉で披針形、長さ 12~50cm、幅 3~6cm、先端は鋭頭、下部はやや狭くなり、基部は心形で両側に耳片をつくる。葉質はやや多肉質で緑色、下面に鱗片がある。葉脈は遊離し、先端は辺縁に達しない。胞子のう群は線形で長さ 4~18mm、中肋の両側にならんでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 76237, 1999-8-30）、
11 作手（加藤等次 4527, 1994-2-8）。

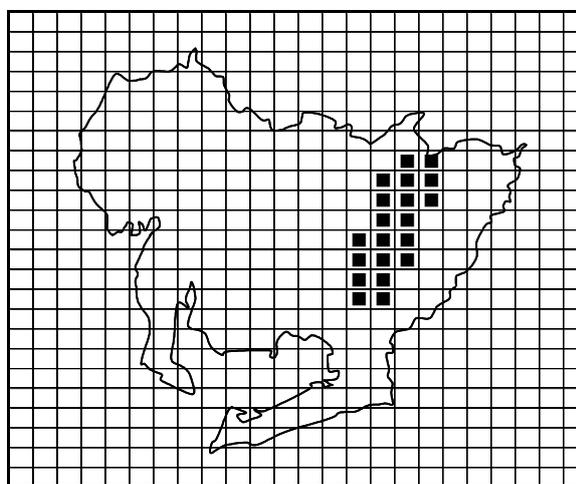
【国内の分布】

北海道から九州までの温帯域に生育するが、本州中部以西の太平洋側では少ない。日本海側では比較的多く見られる種類である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内の地上や岩上に生育する。愛知県では 2 カ所とも古い石垣に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

作手は小群落だが、設楽西部は小株が 1 株あっただけで偶産的である。現在のところ特に減少しているわけではないが、道路の拡幅等により石垣が改修されれば絶滅する。また、園芸目的の採取、伐採、鉄砲水などで消滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

道路の改修に際しては、特に注意が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保シダ p.153, 平シダ p.142, 学シダ I p.409, SOS 旧版 p.39.
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 174-183. 東京大学出版会, 東京.